

ほりきり 堀切

山の尾根を断ち切るように溝状に掘った防御用の施設のことで。横地城にも、敵の侵入を防ぐため、大小の堀切が多数設けられています。東の城の北側などには、深さおよそ3mの迫力ある堀切が残り、中世山城の防御構造を間近で体感できます。



くるわ 曲輪

山や丘を削って作った平らな土地(平場)のことです。東の城は、およそ30×10メートルの主曲輪があるほか、北側や周囲に階段状に配されています。

また、西の城・中の城には、尾根伝いに独立した曲輪群が展開されています。



アクセス



住所 菊川市東横地3533-1

駐車場 あり

- ・急な坂道や階段が多いため、歩きやすい靴や服装でお越しください。
- ・自然公園に指定されているため、動植物の採取はご遠慮ください。

中世の山城の姿を伝える横地城

横地氏城館跡の中でも、特に注目されるのが横地城です。

横地城は、西の城・中の城・東の城という二つの独立した区域から成立する「一城別郭」の構造をしています。各区域とも小規模な堀切と曲輪が自然地形に即して配置された構造は、中世城郭の古い様相を伝えています。戦国時代には、遠江の多くの城は改修しながら利用されましたが、横地城は大きく手が加えられることなく良好に残っていることも、見どころの一つです。

また、横地城の価値は山城だけにとどまりません。横地氏の本拠地である奥横地川沿いの「奥横地



▲横地城概要図

の谷は、大上地区、中上地区、殿ヶ谷地区の三地区それぞれに、居館と寺院のセットが複数存在しています。これは領主や一族の者により営まれていた可能性を示しています。横地氏は近親者による集団指導体制であったと考えられます。そのため、横地城の西の城・中の城・東の城という三つの区域は「奥横地の谷」と同様、横地氏一族による集団指導体制が横地城という空間構造に反映されたものとして評価されています。

さらに横地城周辺には、静岡県戦国時代史の大きな転換点とも関わる場所が残されています。横地氏は今川義忠によって滅ぼされますが、その後、今川義忠も横地氏の残党によって落命します。この出来事に縁があるのが、小笠東地区にある塩買坂や正林寺などであり、今川義忠の供養塔や木像が残されています。

加えて、横地城は御前崎・遠州灘県立自然公園の区域内にあり、豊かな自然環境も大きな魅力です。整備が進んだことで眺望が開け、場所によっては掛川市の粟ヶ岳や遠州灘海岸まで見渡すことができます。歴史と自然の両方を楽しめることも、横地城ならではの特徴です。